

氏名	村井美代	部署	健康開発学科	職名	教授
研究分野	細菌学、細菌遺伝学				
学位	博士（医学）				
学歴	1984年お茶の水女子大学理学部生物学科卒業、1986年お茶の水女子大学大学院理学研究科修士課程修了				
経歴	1987年東京慈恵会医科大学医学部細菌学教室助手、1999年埼玉県立大学短期大学部衛生技術学科講師、2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科准教授				
所属学会（役職）	日本細菌学会、日本臨床検査学教育学会				

【2022年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	埼玉県下水由来および臨床由来ESBL産生Escherichia coliの分子疫学的解析	共同	第16回 日本臨床検査学教育学会学術大会		○山本美紅, 于連升, 菅井基行, 村井美代, 岸井こずゑ	2022年8月
2	埼玉県下水由来および臨床由来ESBL産生Escherichia coliの分子疫学的解析	共同	第105回 日本細菌学会関東支部総会、オンライン		○山本美紅, 于連升, 菅原庸, 鹿山鎮男, 菅井基行, 村井美代, 岸井こずゑ	2022年10月
3	埼玉県内下水由来カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌の分子疫学解析	共同	第50回 埼玉県医学検査学会、さいたま市		○萩原 瑛香, 大賀 祐花, 滝野 景, 于連升, 菅原 庸, 鹿山 鎮男, 村井美代, 岸井こずゑ	2022年12月
4	埼玉県下の下水由来MRSAにおける薬剤感受性と遺伝子型の解析	共同	第50回 埼玉県医学検査学会、さいたま市		○秋保 柁, 櫻井 優莉, 菅原 庸, 于連升, 鹿山 鎮男, 久恒 順三, 岸井こずゑ, 村井美代	2022年12月
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	黄色ブドウ球菌の咽頭保菌の実態解明および口腔保健行動による除菌の検討		研究代表者	2018年4月～2024年3月	
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	埼玉県内の臨床及び下水から分離したESBL産生大腸菌の解析		研究協力者	2021年4月～2025年3月	
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	分子細胞生物学	○	13/15コマ	オリジナルのPowerPointスライドを用いて細胞生物学および分子生物学の基礎を解説した。知識の定着を図るため、毎回、講義まとめプリントに記入させ、次回の授業はじめに答え合わせをした。		
2	微生物学	○	15/15コマ	微生物学の基礎から感染機構まで解説したオリジナルの講義テキストを用いて講義した。知識の定着を図るため、毎回課題に取り組みせ、次回の授業はじめに答え合わせをした。また、新型コロナウイルスをはじめとした話題の感染症に関して、最新情報の科学的根拠を学生に伝えるように心がけた。		
3	臨床微生物学Ⅰ		2/15コマ	オリジナルのPowerPointスライドを作成し、真菌について1コマ対面講義を行った。		
4	医療安全管理学		1/7コマ	医療関連施設における標準予防策および感染経路別予防策についてオリジナルのPowerPointスライドを用いて講義を行った。また臨地実習で実際に遭遇する感染対策についてクイズ形式で解説した。		

5	医科学研究法		1/7コマ	微生物学分野で行っている卒業研究や教員研究について紹介し、身近なところにある研究テーマが、現在日本や世界中で取り組んでいる課題である薬剤耐性対策に発展することを紹介した。
6	細胞研究法	○	3/7コマ	臨床微生物検査の分野で進展著しい遺伝子検査を担当する際に不可欠な微生物の分子生物学の基礎知識の復習を目的に、英文文献を読むための基礎トレーニングもかね、英語教科書を用いて輪読させた。その後、感染症診断のための遺伝子検査の現状、そして将来について概説した。
7	病因病態検査学	○	3/15コマ	大学院博士前期課程の講義。病理学、血液学、免疫学、微生物学担当教員によるオムニバス講義。担当回は2コマで病原体検出のための遺伝子検査の基礎および利点と限界について解説したのち、1コマで学生に新型コロナウイルスの同定と遺伝子検査について調べた成果を発表させ、その場で評価をフィードバックした。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	臨床微生物学Ⅱ		8/15コマ	培養期間が長い抗酸菌培養検査および染色検査、炭酸ガス培養や微好気培養などの特殊な培養環境が必要な細菌の培養検査の実技指導を、科目責任者と2名で担当した。
2	検査総合演習		2/15コマ	臨床微生物学分野の国家試験の出題傾向を解説し、まとめを自分で作成するための穴埋め表に取り組みせ、知識を整理させた。また国家試験過去問題に何度でも取り組めるよう、過去10年分の選抜問題に併せて覚えたい項目を解説に加えた約140問をWebClassにアップした。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	ヒューマンケア体験実習		2022.9.	2施設、10人の学生を担当した。
2	微生物学実習	○	24/24コマ	オリジナルの実習テキストを作成して実施した。無菌操作、グラム染色などの基礎技術習得のため、一人一人に個別指導を行った。またグループワークとして一つの実験課題について4人ずつの班ごとに実験からレポート作成までを共同で取り組ませた。科目分担者と2名体制で担当した。
3	臨床微生物学実習		24/24コマ	グラム陽性球菌の混合検体および臨床検体を想定した異なる細菌を含む模擬検体を一人一人に配布し、自力で分離同定検査が進められるように指導した。科目責任者と2名体制で担当した。
4	臨地実習		2022.12~2023.3	登校日に、微生物検査の科目報告を受けた。
5	遺伝子・染色体検査学実習		4/24コマ	感染症分野の遺伝子検査として、ESBL産生大腸菌の耐性遺伝子型別を、コロニーダイレクトPCRにより実施させ、遺伝子型による表現型の違いを確認させた。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2022.4~2022.12	主指導 2名	副指導 3名
2	修士論文	2021.4~2023.3	主指導(指導教員) 一名	副指導(指導補助教員) 1名
(5) その他				
	名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)	
1	該当なし			
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	該当なし			
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	国立大学法人 埼玉大学	外部評価委員		2022~2023年度
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				

	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	共同実験室部会（副部長）	2022.4～2023.3
2	学科等における委員会等	専攻内入試広報活動支援・教務担当	2022.4～2023.3
3	大学広報活動	オープンキャンパス模擬実習担当	2022.8
4	学生支援	1学年担任	2022.4～2023.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
	該当なし		